



空き家利活用コンテスト2023 優秀賞



住宅部門

事例 08

Y邸

家と一緒にQOLもリノベーション
健康&快適に暮らせるゾーン断熱改修



「中古住宅をリフォームして暮らしてみたい」。そんな施主の夢を叶えるために提案したのは、バイタルゾーンのための断熱改修。バイタルゾーンとは「致命的部位」という意味だが、住宅においてはLDK、寝室、洗面脱衣、浴室、トイレなど生活の中心となる区画のこと。将来高齢になってもずっと健康に暮らせるよう、部屋ごとの温度差を少なくしヒートショックのリスクを抑えるとともに、省エネで暮らせる住まいづくりを目指した。

四間あった和室を一間だけ残し、生活動線に配慮しながら板張りの広いLDK、洋寝室へと大きく間取りを変更。洗面脱衣、浴室、トイレも含めたところを断熱区画とし、天井・床・壁の内側に高性能の断熱材を入れた。また複層ガラスの内窓を追加して高断熱・高气密を実現。この区画内はエアコン1台で十分に冷暖房が可能であり、どの部屋に行っても室温に大きな差がないので、光熱費削減、温度差によるストレス軽減につながっている。

白を基調とした内装は清潔感があり、かつデザイン性に富む。窓の外に広がる田園風景を生かした空間で、施主は時々近隣住民を招き、住環境の良さと緑の眺望を一緒に体感しているようだ。

和室が広々としたLDKに大変身。洋寝室、トイレ、洗面脱衣、浴室といったバイタルゾーンのみの断熱改修により工事コストを抑えることに成功。また、エアコン1台でゾーン全体の冷暖房が可能で、光熱費の削減にもつながっている。



外側から雨戸用の戸袋、既存のサッシ、既存の壁、新設されたサッシと壁。壁もサッシも二重となっている。



一体感のあるキッチン、ソファで寛ぐ来客との会話が弾みそう。対面の扉は洗面脱衣・浴室へつながっており、開け放つことで室温がほぼ同じに。入浴時に起こりがちなヒートショックのリスクを軽減できる。また、段差をなくして転倒防止にも配慮。



LDKの一角には掘り込みのある畳スペースが。北面の眺望を楽しみながらデスクワークをするもよし、ゴロリと横になるもよし。



唯一残した8畳の和室。欄間は、LDKの断熱のため透かし彫り部分をふさいでしまったものの、床の間、書院と共に、この部屋の端正な雰囲気を際立たせている。窓からはLDK側とはまた違う趣を持つ里山の風景が一望できる。広縁のいすに腰かけて山々を眺める時間は施主にとって格別だという。

[DATA]



- 【所在地】倉吉市関金町 【構造】木造2階建て
- 【築年月】平成2年 【改修後の用途】住宅
- 【間取り構成】個室3室(1F:2室、2F:1室[未改修])、LDK、
ユーティリティ、洗面脱衣室、浴室、トイレ
- 【改修期間】2021年10月～2023年2月
- 【改修費用】約1,914万円
- 【設計・施工者】福山建築